



Title	堂友會記事
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷徳. 1938, 16, p. 55-57
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89015
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

堂友會記事

幹事 酒井全太郎

▲昭和十二年十月九日

恆例により會員一同、本堂祭典に奉仕する。
會誌第十五號を發行する。

▲十二月十六日

午後八時より小講堂にて季末茶話會を開く。
講義書目に就て吉田先生より御相談をうけ、
會員より色々希望を述べる。阪倉先生より
言葉の迷信、吉田先生より支那から渡來せし
と思はるゝ言葉の話あり、紙谷君より森田節
齋の奇行談あり、詩吟などの餘興もありて誠
に面白く時を過し十時閉會した。出席者は三

十數名であつた。

▲昭和十三年一月一日

年賀會あり。會員數名參堂、先師儒諸先生の
神位を拜し、吉田・岡山兩先生に賀詞を奉る。

▲一月二十二日

午前二時武藤長平先生急性肺炎にて逝去せら
る。

▲一月二十四日

午後三時三十分より阿部野齋場にて武藤先生
の葬儀を執行せらる。一同會葬す。

▲三月二十四日

午後七時三十分より小講堂にて季末茶話會あ
り、成田・阪倉・吉田三先生及び會員二十數
名出席する。紙谷君より天誅組の乾小次郎と
陸奥宗光との關係に就て談話あり、徳川時代

の手紙が話題となり、先祖の手紙を讀めんでどうするなど先生方が話される。

▲四月十七日

石濱先生及び會員有志數名は、恭仁山莊を訪問して故内藤先生の靈位に回向燒香し、今西春秋君の講演を聽聞す。

▲五月七日

午前十時五十五分岡山源六先生逝去せらる。

▲五月八日

午後二時より豐中市岡山家にて神式によりて岡山先生の葬儀を執行せられ、午後三時より告別式あり、會員一同會葬する。青若葉につつまれた庭に眞つ赤に咲いた躑躅つづしの花が雨にたゞかれて一輪二輪、地に墜ちてゐた。

▲五月二十二日

探勝會を催す、午前七時五十九分天滿橋驛發濱大津にて乗換、和邇驛下車、榎の太木ある辻を右折すれば靜寂な溪谷に郭公がしきりに鳴き薄紫に山躑躅つづしが美しく咲いてゐる。小高き岡にある蕃山堂に辿り着き、息游軒にて晝食後、高瀬武次郎先生の講演を拜聽し、昨日竣功したといふ立志碑前にて記念寫眞を撮影して下山、白鬚神社に詣でて、皇軍將士の武運長久を祈願し、成田先生御揮毫の記念碑を觀覽し、朱塗の大鳥居のみゆる湖水の風光を賞して歸阪した。一行四十八名で盛會であつた。高瀬・成田兩先生に非常な御世話になつた。

▲六月十九日

太山寺行を催し、午前八時梅田驛發、明石驛

下車、借切バスを驅りて竹藪の續く川縁の道を一筋に走ること三里にして太山寺に到着し待つこと暫しにて中村直勝先生を迎へ國寶の繪畫・古文書・建築を懇切な中村先生の御指導を承りつゝ拜觀し歸途、西宮戎神社に詣でて社寶を拜觀した。一行三十餘名であつた。

▲六月三十日

午後八時より小講堂に季末茶話會を開く、出席者四十一名。北滿守備より歸郷せし中島曹長の討匪談や、阪倉先生の源氏物語の話があり、成田先生は本日お作りになつた檀原神宮建國奉仕隊の歌を朗唱せられ、平田・仲田・藤塚三君の朗吟があつた。

編輯を終へて

幹事 山本 檜 信

七月七日の夜、蘆溝橋に於ける一發の銃聲に端を發した此の度の事變が、かやうに擴大しようと思像してゐた人は殆どあるまい。一年三ヶ月を経過した今日、我々は地圖を擴げて我が軍隊占領地域の廣大なのに驚嘆する。寡にしてよく大軍を撃滅し一死報國、新しき東亞建設の礎となつた英靈も多數である。茲に謹みて默禱を捧げる。第一線の勇士から来る、どの通信を讀んでも、一兵卒に至るまで聖戰の目的をよく認識してゐることがわかる。抗日頑迷の敵兵は一人残らず殲滅せずんばやまぬ皇軍の將士ではあるが、善良勤勉な隣國の民衆を保護し、幼い